



marge 45  
marge マルジュ

あなたのそばの  
保険代理店  
グット・ライフ



まさに、イラストを「鳥」。形をかた  
どる、象形文字の一種としての漢  
字。「どうかすると書を遊戯三昧  
に書いて、みずから愉しんでい  
た」と神田喜一郎「藝林談叢」が  
評するひとの字。はて、誰か？  
いわゆる三羊、その領袖です。



前号の答え「鳥」

あなたの身近な問題を考えるのが、私たちグット・ライフ  
の仕事です。ぴったりサイズの保険をおあつらえ致します

4U; for your ordinalness, activities, future ... and

あなたのそばの保険屋さん  
goodlife@cosmos.ocn.ne.jp

グット・ライフ

ミナ イクゴゴー  
Tel 0463-37-1955  
Fax 0463-37-1966



love, all 'FOR YOU', we 'Good Life'



テレビアニメの「ササエさん」にサンペイさんという青年が登場する。三河屋さんの御用聞きだ。ペーシユの野球帽がトレードマーク。いまでは見なくなったジュート織りの藍染めの前垂れ姿だった気がする。もう三十年もお目にかかってない。近況や如何。お変わりなさそうなのだが。

ふうっと、サンペイ氏の顔が浮かぶ日がある。「保険屋ってのは、サンペイさんみたいなもんだなあ」と口にする。

いやいや、丹波の出で苦学した恩師がおっしゃるには、酒屋乾物屋は、ビールの大びんケースを三つ、背に載せて運ばなきゃつとまらん、バイト仲間は探検部や山岳部の猛者はかりだった。と。サンペイさんはあの童顔で、剛力なのだ。そうになると、似ているのは、デカイ地声の挨拶がほぼ「コンチワァー」と聞こえるらしいこと、「マイドゥー」のニュアンスがこもることくらいか。

それでも、「屋」がつく職種であることから、庶民の日々にちかしい仕事とは言えそうだ。「うちのほけん屋さん」、なんていい響きなのだろう。

保険屋はお勝手口に立っている。玄関から出入りがゆるぎされていても、応接間でやりとりしていても。お宅の勝手口、会社なら湯沸室からの眺めが、存外大切に思う。私は、たえず日常の質感なり、生活の雰囲気をつかみとっていないと、安堵できない。た。見かけによらず、心配症ね」と揶揄される。保険は生活や生の展望にすり合っていないと、と添える。保険は

お会いすれば「お変わりございませんか？」と添える。保険は契約時に将来にわたる補償保障を止める質が強い。個人

ましかと

ご家庭の動態に対応する、コト（現象）に対応するのは、人。話しの接ぎ穂から、いざと、万が一、の備えに対処していく。その日々、とりたてて用がなくとも、顔をだすように心がける。「顔」は責務を担うというサイン。些細いと思われることでも、気やすく声をかけていただけよう。と、いそぎ「近くまで来ました」とのメッセージを届ける。この卑義をポストに預けてきたりする。サンペイさんに親しみを憶えるのは、大学生のときのアルバイト、お船屋さんの出前のせいかもしれない。お正月のみだったが、三年めには、アナキユウ（穴子を抱かせたカッパ巻）のアサイさんと、エビタマゴの（アレルギーな）アソさん、と。小さな子がいればワサビソード記憶で配達ができるようになった。小さな子がいればワサビ抜き、育ち盛りにはニギリが大きい。白身を好むひと、貝好き。歯がないのにイカに目がないうのオバアには包丁が細かく入った。舌代は同じでも桶に込められる心遣いはさまざまである。

暮の風の強かった日、外気に当たろうと事務所から出る。八間通りの向う側でお婆ちゃんの帽子が飛んだ。チューリップハットが車道の転がっていく。信号機と信号機のちやうど間、拾いに出ようとするのだが、車が途切れず、行きつ戻りつ。見かねて、手を上げ、流れをさえぎる。と、どこそのバイクが中央線に寄っていき、ひょいと帽子をつまんで、くるり反転、持ち主に手渡すと、サアと去っていった。ピザ屋だ。二十歳そこそこの青年のようだ。たっぴりとした陽さしを感じる。

保険屋は「よろず相談屋」の一面がある。もちはもち屋の仲間と協業している。今年、すべてのお宅がイソノ家でありますように。

◆ “海は広いな、大きいな”と歌いだす唱歌がありません。幼少の頃から海の近くで暮らしていたせいでしょか、海は大好きです。特に釣りをするとかサーフィンをするとかというのはありません。海を見ていると心が落ちつくのです。

◆ 波が打ち寄せます。ある一定の間隔で打ち寄せ、そして引いていきます。耳を澄ませると、寄せては返す波の音とともに静かな波の息づかいが伝わってきます。

137億年前に誕生した地球に海が出来て、月の満ち干によって波が起り、その波は今日に至るまで、一瞬たりとも休まず反復繰り返しているのですから、自然の営みは恐れ入ります。

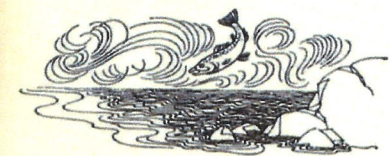
◆ 2011年3月11日、巨大地震と未曾有の津波に襲われた岩手県陸前高田市や宮城県女川町などは一瞬のうちに壊滅してしまいました。

これも自然の営みです。多くの人命が失われ、町は流されました。自然の持つ巨大な破壊力をまざまざと見せ付けられました。自然の脅威です。

そして次の朝は、いつもと変わらない海が、人の生活を支え、産業を盛んにし、文化を創り上げてきた優しい海がそこにあります。まるで何もなかったかのよう。

◆ 普段見ている海は静かです。時々低気圧で荒れた海を見ますが、突然の巨大地震で起きた荒れ狂った大津波は、見たこともなければ想像すら出来ませんでした。静かな海と荒れた海、自然にはこの二面があることも事実なのです。

◆ 今日も海を見ました。そして「海は広いな、大きいな」と口ずさみました。海を見ていると、時の経つのを忘れます。この瞬間、「人間は自然の一部なのだ」と思い、そこに小さい「わたし」を見出します。なん



フランコを容認できなかったチェリスト、パブロ・カサルスは亡命する。『わたし』の故郷では、鳥はピース、ピース(平安)と鳴きます。前置きし、生地カタローニヤの民謡『鳥の歌』を弾く。独裁の政治権力があるうちは再び故国を踏むまいと決め、外つ国で生涯を歩いた。(カザルスに呼応すること、作曲家メシアンには鳥のカタログ)という美しいピアノ独奏曲集がある。

いま2012年11月10日、ガザの空には、芝刈り機のような音をたて、下草を掃うように市街地を襲う無人爆撃機。イスラエルでは、ひよろひよろとあがる花火さながらミサイルが民家をつぶしています。数ヵ月後のきょう、中東の晴天の下は、しばし平穏をとりもどしているでしょうか。

乳と蜜の流れる地と謳われた場所は、血と涙を夜露とばかりに吸ってきました。シリアの内戦も収束の兆しはありません。流血と瓦礫は、畢竟、ヒトの性に帰せられるのでしょうか。

だれも、静(いさ)か、争いを欲する者はあるはずもない、いつかは、いや明日にも紛争はなくなるはず、とは幼稚な臆断と忍受せざるをえません。

この世界では「ぼりよくはいけません」「よいものいじめはいけません」と教育された子どもは、恵沢な生き物として在ると言うべきなのでしょう。

憎しみを生の一与件とし、争うことが茶

飯であれば、流血が生理のごとき「世界」を招来します。そのような社会も、まごうなく、「われわれの世界」のさまです。

Ψ ( Ψ ( Ψ

現状を受け入れようとする自らに鬱屈せぬよう、谷川俊太郎の詩を喚び起こしました。

お正月という場(トボス)違いを惧れず、賀状で紹介しました。

Ψ ( Ψ ( Ψ

谷川の詩をもうひとつ引いてみます(→)。小唄ぶりの、造作のない口語と読み過ごしようになりますが、さいごにきて、はっとさせられます。この詩境が、いつかユダヤ人とパレスチナ人と共に日没を一日

の始まりとする民]で交わされる夕べであろうことを、私は望みます。この「どこか」は、言うなれば、ユートピアとしての場所。「あなた」と「私」の会話がふたつのところの距離をつめていかなければ、どこにもありえなかった。二者は、ゆっくりと生みだしていく(ここでは、いち刹那、秘私の、エロティシズムとの限定はつきます)。やわらかな宵が繭となって二人をつつみ、これから訪なう甘やかな夜を、読む者は想像します。この夢のひとかげのようなユートピアも、昨日を反故とし、一緒に行こうと語りかけなければ、いまここを明日にむけ、ちいさくとも賭けつづけなければ、見ることは叶いません。

# b # b

ところで、『女に』という本に収まっているので「男うた」なのでしょう。とすると、この字面では「あなた」の心裡がすつきり斟めません。相方＝女にとつての「どこか」がつまり何処なのか、どうも心もとない。女ごころは、ハワイとか、パリにあるような気がしてきました(苦笑)。このままでは、片々、男の独りよがりを受け取られかねません(憫笑)。そこで、女うた、女に仮託した口吻にしてみます。すると、相聞へと架橋されます。「どっかに行こうと私が言う/どこに行こうかとあなたが言う/ここもいいわねと私が言う/ここでもいいなとあなたが言う/言ってるうちに日が暮れて/ここがどこかになっていく」私自身の暗誦のためのヴァージョン、いかがでしょう。

★昨年10月より、自動車保険、大幅な制度変更。ご案内順次差し上げております。くわしくは訪問の折、お尋ねくださいませ。

謹啓、平素は格別のご高配を賜り、ありがとうございます。本年も、自動車保険のご契約者みなさまの一年間の無事故を御祈りいたします。祈念の気持ちを込めて、素品を用意いたしております。ご契約の継続手続きの際にお届けいたします。小社からの花一輪をお受けとりいただければ、幸いです。店主 敬白

【お届けの押し花の葉は、山見共園作業所ひばり乃ショップ作成。手作製品多数量取。各種製作応需。平塚市御殿1-17-1 ☎0463(31)0723】

恵さん、実習体験をきらきらと語る君を祝す、次々時代の「世界」の貌、希望以て待つ。教師という聖職者の途上、すこやかに。峻なれ